



Ito Eiji
伊藤 央二

スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 教授

学歴・学位・職歴

学歴：アルバータ大学 体育・レクリエーション学部 博士後期課程
学位：Ph.D. (体育・レクリエーション学)
職歴：順天堂大学スポーツ健康科学研究科スポーツ健康医科学研究所 博士研究員
和歌山大学観光学部 准教授
(兼任) 和歌山大学国際観光学研究センター センター長代理・理事補佐

研究シーズ

スポーツツーリズム

研究キーワード

サプリメント観光行動、スポーツツーリズム経験、スポーツツーリズム行動、
スポーツイベント、地域活性化、気候変動

産官学連携実績

【連携実績】

スポーツ庁、経済産業省、愛知県庁、大阪府庁、和歌山県庁、豊田市、一宮市、
名古屋グランパス、名古屋ダイヤモンドドルフィンズ、ワールドマスターズゲームズ
2021関西組織委員会

【外部研究費獲得】

科学研究費助成事業
笹川スポーツ財団研究助成
イベント学会研究助成



Researchmap



伊藤ゼミ Instagram



伊藤央二 HP

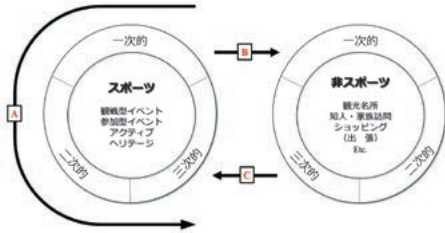


私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

スポーツツーリズムにおけるサブメンタル観光行動

スポーツツーリズムは、旅先でのプロ野球などのスポーツ観戦（観戦型イベント）、マラソン大会などのスポーツイベント参加（参加型イベント）、スキーなどのスポーツ実施（アクティブ）、スタジアム観戦ツアーなどの参加（ヘリテージ）という4種類に分類されます。また、旅行におけるスポーツの目的レベルによっても、スポーツがその旅行の主目的である場合（1次的）、目的のなかの1つにすぎない場合（2次的）、そして旅行先で偶然スポーツに出くわす場合（3次的）の3種類に分類されます。このようなスポーツツーリストの行動を理解し、地域活性化につなげる際に役立つのが「サブメンタル観光行動」と呼ばれる主目的な観光行動に付随する副次的な観光行動の枠組みです。スポーツツーリズムにおけるサブメンタル観光行動には、写真①にAからCで示された次の3パターンがあります。A)「スポーツからスポーツへ」：スポーツを主目的とする観光客を異なるスポーツに誘導する（例：マラソン大会参加者を野球観戦へ誘導）。B)「スポーツから非スポーツへ」：スポーツを主目的とする観光客を非スポーツに誘導する（例：スキー目的の訪日観光客をショッピングへ誘導）。C)「非スポーツからスポーツへ」：非スポーツを主目的とする観光客をスポーツに誘導する（例：観光地巡りが目的の訪日観光客を大相撲観戦へ誘導）。

① サブメンタル観光行動の概念モデル



② サブメンタル観光行動が取り入れられた政策例



サブメンタル観光行動を通して、観光客の旅行全体の満足度や観光消費額を高めることが期待されています。特に、スポーツイベントの参加者や観戦者はイベント前後にイベント開催地の観光を行うことが報告されています。そのようなサブメンタル観光行動を明らかにすることで、スポーツイベント開催の効果を最大限に引き出すことを考えています。

③ ねんりんピックの国わかやま2019で考案・販売したサブメンタル観光ツアー



④ わかやま新報に掲載されたサブメンタル観光ツアーの記事



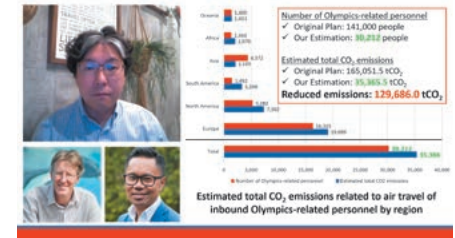
国際スポーツイベント観戦者・関係者の移動に伴う二酸化炭素排出量

国際スポーツイベントの開催は、選手、関係者、観戦者などのさまざまな種類のスポーツツーリストの飛行機移動を引き起こし、気候変動の主な原因となる二酸化炭素排出量を大幅に増加させてしまいます。そのため、これらのスポーツツーリストの飛行機移動のニーズマネジメントは、国際スポーツイベント主催者や競技団体にとって、持続可能な観光を実現するための主要な課題となっています。科学的エビデンスをもとに、国際スポーツイベントにおける気候変動対策をモニタリングする指標開発を目指し、持続可能な国際スポーツイベント開催の実現に向けた研究に取り組んでいます。

⑤ UNWTO World Sports Tourism Congress で「Top 5 Best Practices」に選出された発表



⑥ Annals of Tourism Research Empirical Insightsに掲載された研究紹介



期待される効果・応用分野

観光にはスポーツツーリズム以外にも、ガストロノミー、メディカル、ダーク、グリーン、アストロツーリズムなど多種多様なテーマがあります。サブメンタル観光行動はこのようなさまざまなテーマのツーリズムを繋げる役割を担い、交流人口の拡大や地域における経済波及効果などの地域活性化をもたらすことができます。また、国際スポーツイベント開催における気候変動対策は、スポーツ以外のイベント開催(MICE等)にも応用することが可能です。

産業界へのPR

21世紀における日本の重要な政策の柱として位置づけられている観光のなかでも、スポーツは重要なテーマの1つとなっています。当研究室では、観戦型イベント、参加型イベント、アクティブ、ヘリテージというさまざまなスポーツツーリズム現象、そしてそれらと他のテーマの観光を繋げるサブメンタル観光行動の研究を実施し、科学的エビデンスに基づくスポーツツーリズム振興および政策提案に取り組んでいます。

⑦ 気候変動など社会問題に取り組む名古屋ダイヤモンドドルフィンズとのコラボレーション



⑧ 熊野古道を歩くことで得られる心理的経験についての調査



代表的な論文・知財

- 1) Supplemental tourism activities: A conceptual framework to maximise sport tourism benefits and opportunities. Journal of Sport & Tourism, 24, 269-284, 2020.
- 2) ねんりんピックの国わかやま2019でのサブメンタル観光ツアー開発と参加者のツアー満足と心理的経験についての関連性. 観光学, 23, 55-65, 2020.
- 3) ポスト東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツツーリズム政策. 観光学評論, 8, 45-53, 2020.
- 4) An evidence-base for reducing the CO₂ emissions of national mega sports events: Application of the three-hub model to the Japan 2019 Rugby World Cup. Journal of Sustainable Tourism. Advance online publication.
- 5) Carbon emission reduction and the Tokyo 2020 Olympics. Annals of Tourism Research Empirical Insights, 3, 100056, 2022.